

～最終章～

# Go for it !!

豊中市立第五中学校 第62期  
第3学年学年通信第38(最終)号  
2016年3月14日



～卒業に寄せて～

春 に

谷川 俊太郎

この気もちは何だろう  
目に見えない エネルギーの流れが  
大地から 足の裏を伝わって  
ぼくの腹へ胸へ そうしてのどへ  
声にならない叫びとなって こみあげる  
この気もちは何だろう  
枝の先のふくらんだ新芽が 心をつつく  
喜びだ しかし 悲しみでもある  
苛立ちだ しかも 安らぎがある  
憧れだ そして 怒りがかかっている  
心のダムにせきとめられ  
よどみ 渦まき せめぎあい  
いま あふれようとする  
この気もちは何だろう  
あの空の青に 手をひたしたい  
まだ会ったことのない すべての人と  
会ってみたい 話してみたい  
あしたとあさってが 一度にくるといい  
ぼくはもどかしい  
地平線のかなたへと 歩きつづけたい  
そのくせ この草の上でじっとしていたい  
大声で だれかを呼びたい  
そのくせ ひとりで黙っていたい  
この気もちは何だろう

## “立つ鳥あとを濁さず” で。～整備作業 on 3・10

～



公立一般選抜がおこなわれた日、私学専願及び公立特別選抜合格メンバーで、整備作業がありました。クラスごとに分担して教室の床や壁を磨いたり、トイレや分割教室、下足室などで清掃作業に取り組みました。人数の少ないクラスに助けに行く姿なども垣間見られ、最後の整備作業にふさわしい姿が見られたひと時でした。参加してくれた皆さん、綺麗にしてくれて、ありがとう。



## “予行” も無事終えて。～式予行 On 3・11～



先週火曜日から始まった式練習。当初の心配な様子も徐々に改善され、入試前日の9日(水)には、かなりの集中力が発揮され、ごちなかった〔呼名〕と〔証書受け取り〕の動きも堂々としていました。学年合唱も、〔ありがとうを歌う会〕を思い起こさせる出来栄えだったのでは?。この間、〔卒業の言葉〕の練習も、限られた時間をやりくりして続けました。そして金曜日の〔予行〕。増幅する緊張感の中、2年生も前にしながらの卒業の歌までしっかりと終えられました。またこの日は、最後の通知票や卒業文集、アルバムの受け渡しなどもあり、いよいよ本当に卒業するんだなあ、と言う実感が湧いてきた日だったのではないのでしょうか。放課後には、「卒業の言葉」の読み手の皆さんが最終のリハーサルまで頑張ってくれました。62期の想いをしっかり伝えてくれると思います。



## ご卒業おめでとうございます。



ようやく、少しずつ春の訪れを身近に感じられる季節となりました。今朝はどんな気持ちで目覚めましたか。皆さんとともにこの日を迎えられたことを心からうれしく思います。62期145人の最後を締めくくる授業である〔卒業式〕。立派な態度と意気込みで、ぜひ素晴らしいものに作り上げて下さい。今一度、頭髪、服装など身なりを整えて、式場に向かって下さい。そして、一番いい返事で、証書を受け取ってください。

振り返っての3年間を含めて、今日までの15年間に、色々な経験をしてきたと思いますが、これからもっと、想像以上の出逢いが待っていることでしょう。その時、何よりも心のよりどころ、支えとなるのが62期で築き上げた「つながり=絆」だと思います。これからの人生の大きな宝物である「絆」をいつまでも大切に、これからの人生を歩んでいってください。

皆さんが船出する世の中には、成功だけが続ける人などひとりもいなくて、何かしら失敗や挫折を経験しながらも、互いに助け合いながら生きていく力が身についていくものだろうと思います。願わくば皆さんのこれからの人生が、そんなことも含めて実り多いものでありますよう、次の言葉を、最後の贈り物として贈ります。”次の一步”に進むための力に、の願いをこめて。

「一步前に踏み出す勇気があれば、きっと何かが始まる」

では、皆さん、お元気で!。また逢える日が来ることを楽しみにしています。

(18日は、公立一般選抜の発表ですよ。お忘れなく!)



## 保護者の皆様へ

お子様のご卒業、おめでとうございます。幼かった表情の62期生の皆さんが、思春期の悩みや不安等が交錯する3年を経るなか、心身ともに立派な姿に成長されましたこと、本当にうれしく思います。さぞ皆様も感慨を新たにされていることでしょう。今後さらに大きく飛躍されることを心からお祈りしております。私どもに至らぬこともあったかと存じますが、それにも関わらず、さまざま

まなお力添えをいただきましたこと、感謝申し上げます。3年間、本当にありがとうございました。

第3学年 教職員一同